

フランス視察報告

— 知的障害児・者施設を対象に —

山本 晋輔



## 今回の海外視察にあたって

- ・ 新たに知的障害児を対象にした入所施設の建替計画に取り組むことになった。
- ・ ゆう設計では知的障害者の施設計画の実績は数多くある（入所施設・グループホームの新築・改修等）。
- ・ 同様に知的障害児を対象にした通所施設の実績もあり。

- ・ 近年フランスでは、2020年全国障害者会議が開催されて以来、障害者支援に国をあげて力を入れている。

「施設・住まいの拡充」

「教育や支援に関するアクセス保障」

これらを目標に掲げ、知的障害児・者もその対象に含まれている。

- ・ いまフランスでどのような施設がつくられ、または運営されているのか。



# 自閉症の家

LA MAISON DE L'AUTISME



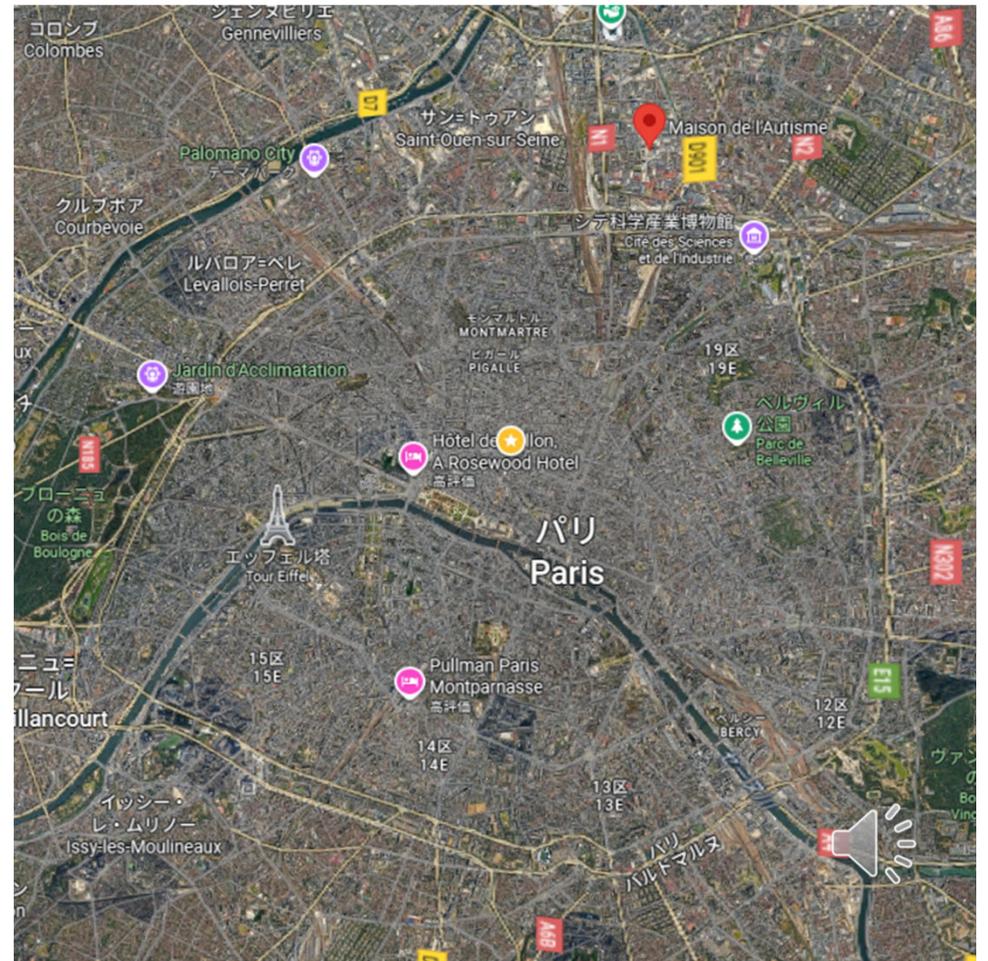
- 家とあるが、この施設は「相談施設」。
- 2023年開設。
- 2020年の全国障害者会議において、自閉症は学校・社会生活を送る中で気づき/気付かれづらく、必要な支援を受けられないまま社会的・家庭的困難を抱えた状況に陥りやすいと言及された。
- 支援制度の複雑さが問題視。また各自治体で取り扱いに差異がある。
- アクセスの容易さを実現する「ワンストップ型」の相談・情報拠点
- 自閉症を持つ人やその家族、支援を行う専門家、また一般市民が対象
- 窓口の役割だけでなく研修・コミュニティ形成の場としても機能
- 教育関係者、福祉・医療関係者、家族、当事者がつながる拠点
- オンライン版の「自閉症の家」も展開されている。



# 自閉症の家

LA MAISON DE L'AUTISME

- フランス\_パリ近郊  
オーベルヴィリエ(Aubervilliers)
- 施設は、自閉症の特徴（感覚過敏等）に配慮されており、スヌーズレンルームやアルコール等の小さな空間、わかりやすいサインなどが備えられている。自閉症の人々やその家族の「安心・居心地」を重視したもの。
- 設計：ASB architectures  
Anne-Sophie Brychcy（アン-ソフィ ブリクシー）  
医療福祉施設等を数多く設計  
<https://www.asb-a.com/>





2007年に建てられたオフィスビルの1階と4階が使われた。

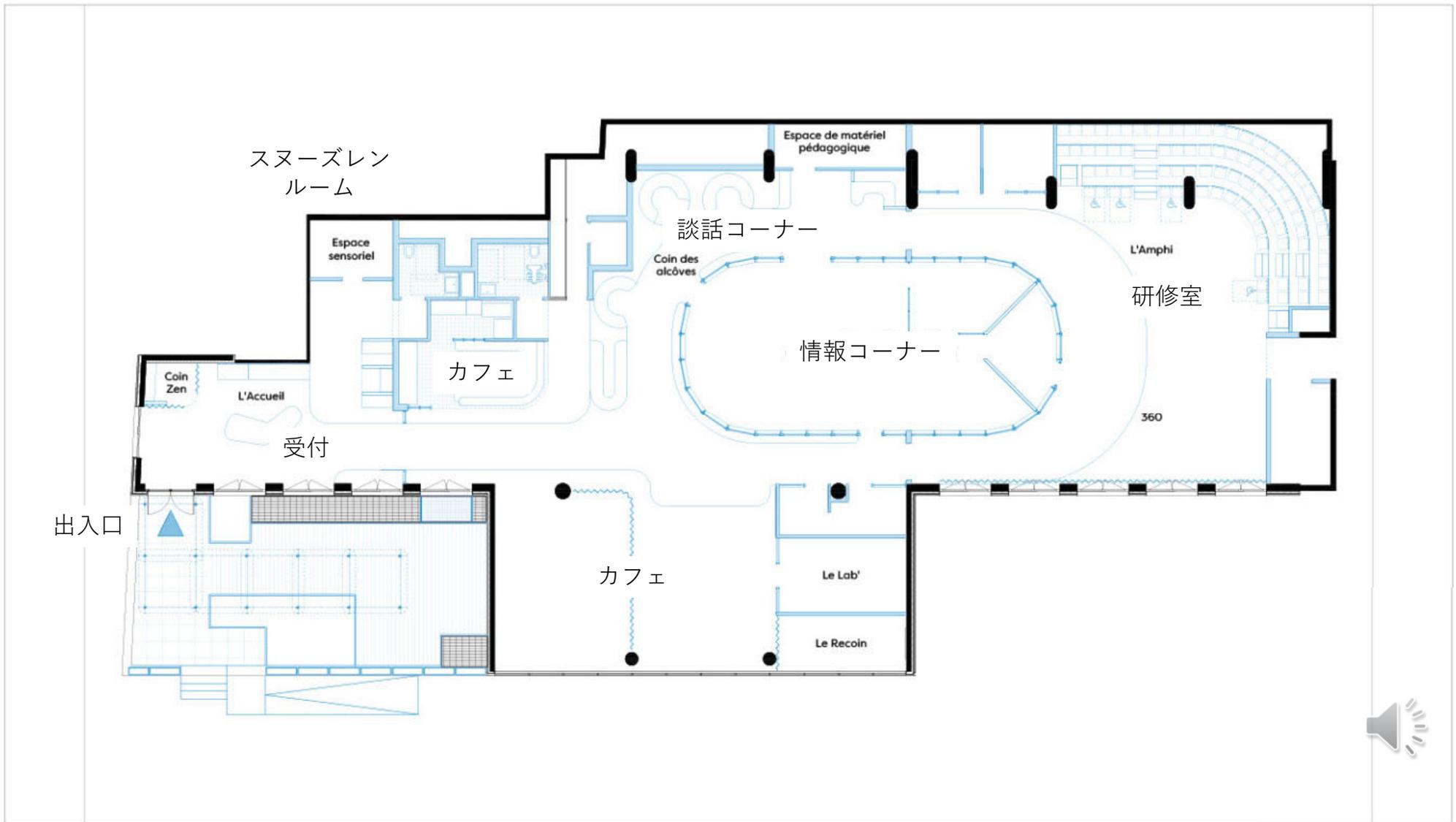
新たに設けられた「自閉症の家」専用の出入口  
わかりやすいカラフルな庇を設置

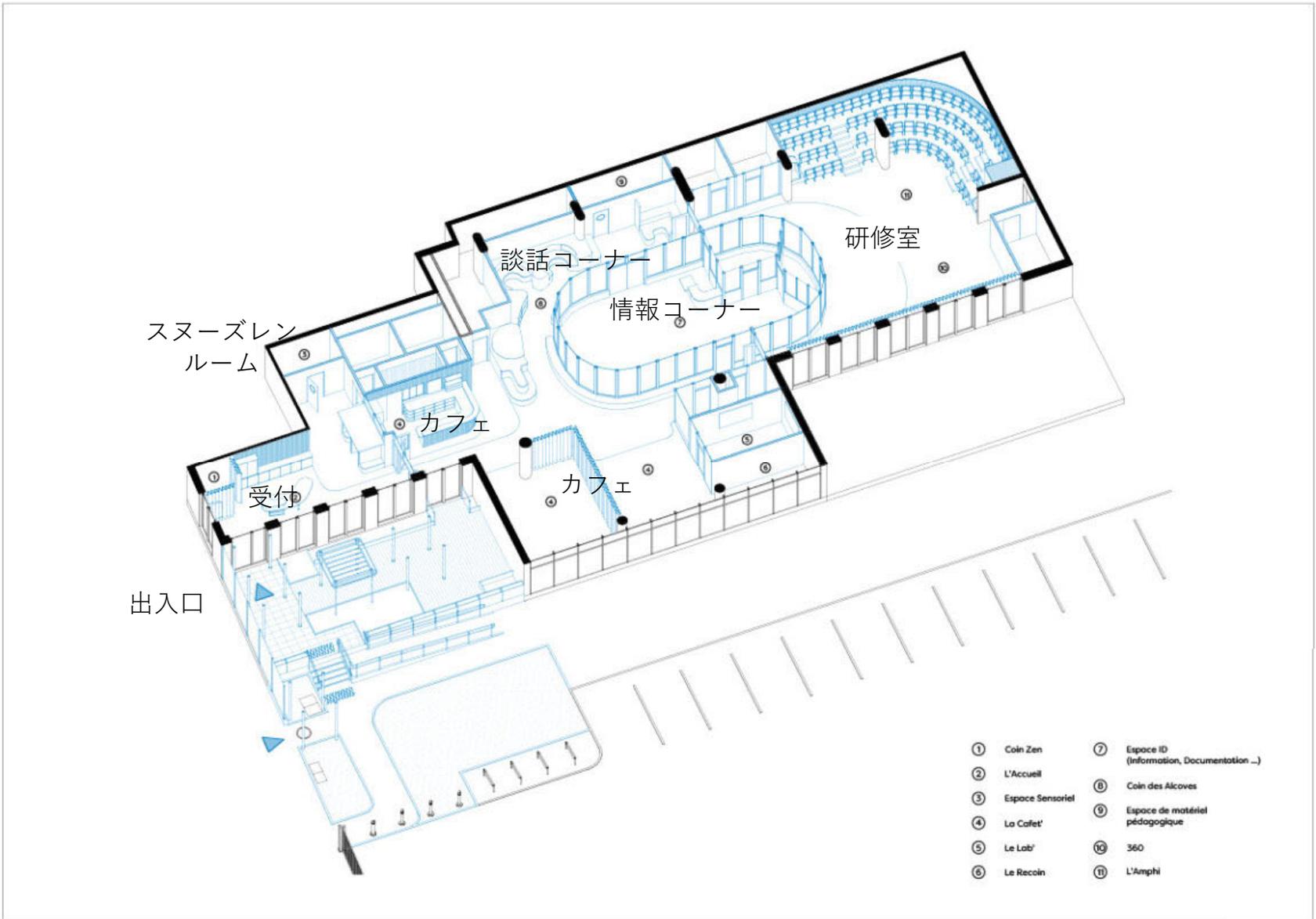
写真：ASB architectures (<https://www.asb-a.com/>)\_webサイトより抜粋











写真：ASB architectures (<https://www.asb-a.com/>) webサイトより抜粋



Espace sensoriel

スヌーズレンルーム



吸音パネルが貼られたアルコーブ



照明等が下げられているのは、  
天井面が低く見える工夫。

情報コーナー

カフェ





談話コーナー

カフェ

受付





談話コーナーの一部は  
周りが囲われて  
落ち着きやすく  
集中しやすい工夫も。





当初カフェとされていた空間の一部はより障害を持った方でも過ごしやすいように設えていた



カーテンは吸音性能に着目して採用されたもの。  
開ければ隣の部屋と一体化もできる。





情報コーナー

研修室

Le Lab'

専門職の方の作業スペースとして  
使用されていた

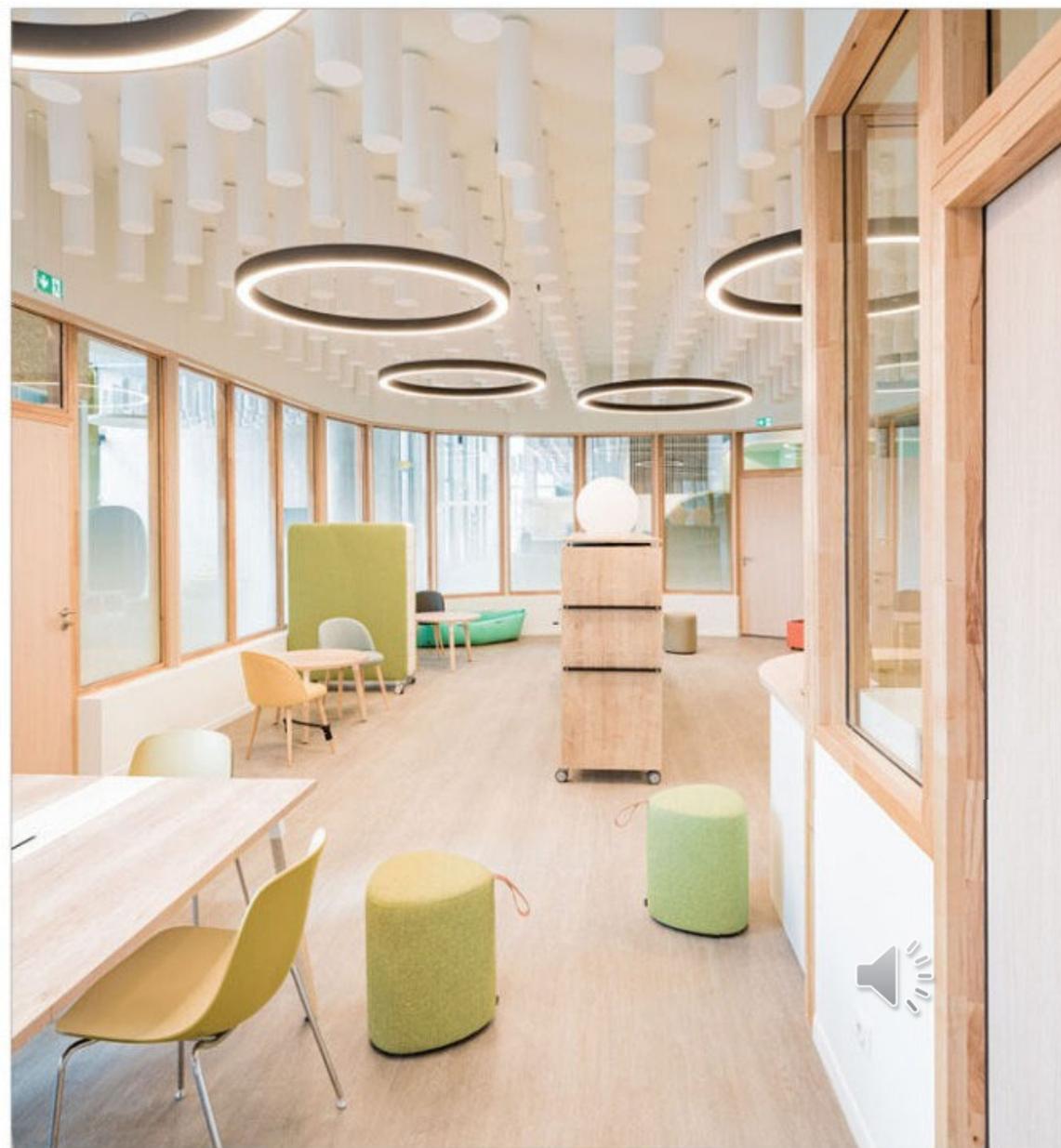
照明のシェードを吸音パネルで製作。  
ここでも天井面を低く感じさせる工夫





受付やカフェコーナーに見られた  
モチーフが採用されている。  
やはり吸音材でつくられている

写真：ASB architectures (<https://www.asb-a.com/>) webサイトより抜粋





研修室はもともとの天井高を活かした構成になっている



左右1か所ずつまわりが  
囲まれたタイプの客席も

研修室には階段状の客席が設置されている  
2か所はまわりが囲まれたタイプの客席も。

視察報告

# LA MAISON DE L'AUTISME

自閉症の家

